

令和7年度 京都大原学院 前期学校評価（中間報告）

学校教育目標

「大原のゆとりある心を自信をもって伝えられる子に！」

◎前期学校評価を実施し、学力分析テストの結果などを総合し、以下の（1）～（5）の項目ごとに前期学校評価（中間報告）としてまとめました。9月21日開催の学校運営協議会での協議内容も反映しています。アンケートの回答ありがとうございました。

（1）「確かな学力」の育成に向けて

【分析】

各種、ジョイント・学習確認プログラムではほとんどの学年が全市平均を上回る結果となりましたが、全市平均値を下回る学年もありました。6年生・9年生の全国学力学習状況調査の結果では10ポイントほど全国平均値を上回っています。6年生全国学調の生徒質問紙で「新聞を読んでいる」と回答した生徒が23%（全国22.1%）となっています。

前期学校評価アンケートで「できた、わかったという満足感をもって学習している」という質問項目の肯定的回答が、前期B生80%、中期B生97%、後期B生100%。「自分の考えを相手にわかりやすく話している」という質問項目についての回答が、前期B生80中期B生92後期B生100%。英語の学習についての質問項目、「英語を学んだり、使ったりするのは楽しい。」の回答で否定的な回答「あまりそう思わない」が、前期B生14%、中期B生5%、後期B生13%。「ICTが使えるようになってきた」と回答している生徒は前期B生94%、中期B生94%、後期B生93%。今年度から新しく追加した「ipadを使ってする勉強は好きだ」という質問項目では、前期B生90%、中期B生91%、後期B生86%が肯定的な回答をしています。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

以上のことと踏まえて、本校では引き続き、基本的な学習のスタイルは維持しながら進めたいと考えます。学院生は学習について学校評価アンケートの回答からも意欲的に取り組んでおり、各種プログラムの成績からも、全体的に大変健闘していると思います。引き続き、TTの体制で少人数の利点を活かし指導を積み重ねていけば、向上を図ることができます。

【学校運営協議会より】

以前から進めている焦点化児童生徒への指導を引き続き行い、ボトムアップをお願いします。どの子どもにも効果が生まれるよう、授業改善を進めていただきたい。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

【分析】

学校評価アンケートの「自分がされていやなことは、他の人にしないようにしている」の質問項目で肯定的回答の数値は前期B生90%、中期B生97%、後期B生100%。「挨拶は自分からしてい

る」では前期B生93%、中期B生89%、後期B生100%。「みんなが気持ちよく生活できるためのマナーを意識している。」という項目では、前期B生97%、中期B生97%、後期B生100%が肯定的回答。「大原の自然や環境について関心を持ち、大原の素敵さをいくつか挙げて話すことができる。」の項目では、前期B生80%、中期B生94%、後期B生93%が肯定的回答。6年生の全国学調、生徒質問紙では、「学校が楽しい」と回答した生徒は100%。「友達関係に満足している」生徒は100%。9年生の全国学力調査生徒質問紙では、「学校が楽しい」かどうかの質問で肯定的な回答が100%。また、「先生に相談」しやすいかどうかは75%。6年「先生はいいところを認めてくれる」は100%。9年生も100%と高い評価となりました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

学校評価アンケートの肯定的回答の比率が高く、「豊かな心」の育成に向けて、環境の整備が進んでいると考えます。本校の学習の柱でもある、9年生の「大原提言」に向けての取り組み、小中一貫校の強みである、1~9年生の縦割り活動をさらに向上発展させ、お互いを認め合い、成長し合える集団作りを進めていきたいと考えています。

【学校運営協議会より】

大原提言の学習にも楽しんで取り組んでいる姿が見られます。先輩の姿を見て、後輩が来年の学習を楽しみにする、いいサイクルが生み出されているように感じます。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

【分析】

6年生・9年生、全国学調の生徒質問紙の回答では、「毎朝朝食を食べている。」や寝起きの習慣など90%を超えて良好です。「決まった時間に寝る・起きる」項目でも90%以上の学院生が肯定的回答をしています。他学年では個人差が見らますが、体力テストの結果は、京都市全体として、男女とも、全国値からみると低下傾向です。男子は京都市平均と比較して、長座体前屈・ボール投げの数値が全国平均より下回っています。女子は上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・50m走・立ち幅跳び・ボール投げの数値が下回っています。今年は全体的に保健室の利用数が増えています。授業で道具を使うなどで起きる怪我は昨年より少なくなったと思われる。感染症の流行も前年度と比べて激減し、学級閉鎖も本日（11月初旬）まで必要ありませんでした。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

全体的に生活習慣のバランスがとれているように思われます。個人差がありますが、ゲームや動画を見たりすることで、睡眠時間が短い学院生もいるようです。新体力テストの結果より、傾向として握力や長座体前屈、ボール投げにおいて、全国値と差があることが分かりました。軽度の怪我や、気持ちの相談などで、保健室来室が増えていますが、悪い傾向ではないと思っています。対話の機会ととらえ教職員全員で丁寧に対応していきます。

【学校運営協議会より】

学童でも外遊びを大切にしています。引き続き、体を動かす機会を作っていくたいと思います。

（4）学校独自の取り組み

【分析】

学校評価アンケートの「『やってみたいこと』『なりたいもの』などがいくつか頭に浮かぶ。」では後期B生67%、中期B生80%、前期B生90%「学校の学習が将来、社会に出たとき役に立つと思っている」では後期B生100%、中期B生98%、前期B生100%の児童生徒が肯定的回答をしています。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

本校の総合的な学習の時間「大人になる科」の取り組みの成果が表れていると考えます。上記の数値もここ数年の同時期の回答と同様、肯定的な学院生が多くなっています。多くの地域の方が学校の学習に協力していただくことで、充実した取り組みになっています。活動時期を分散することで、教職員の負担感を軽減することができました。次年度の活動を楽しみにしている学院生が多くいるので、学習の内容は大きく変えず、少しづつ見直しを進めていきたいと思います。

【学校運営協議会より】

学院生が地域の催しなどに主体的に参加してくれることで、元気をもらっています。地域の方から活気が出てきたとの声を伺うことが多くなりました。

（5）教職員の働き方改革について

【分析】

学校評価教職員のアンケートでは、「職場では同僚に相談しやすい雰囲気がある。」「職場には働きやすさを感じている。」の項目で肯定的な回答が100%になりました。先月の時間外勤務時間は60～70時間未満が2人、45～60時間未満2名となりました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

昨年度の時間外勤務時間と比較すると、今年も同時期の時間外勤務超過人数は少なくなっています。まだまだ教員の時間外勤務に支えられ、負担を感じるので、役割分担や引継、交代で休みをとるなど、さらに取り組みを進めていきたと考えています。

【学校運営協議会より】

みんなの健康が学院生の指導にとっても大切です。